★流星課 METEORS (140) 課長 **小槇孝二郎** (*Koziro Komaki*, President)

九月に入ると流星數はづつと減少するが，一年の平均數よりは多い．顯著な流群はないが，十月とも合せて，次のものの出現が豫想される．September and October Meteors:

期間	極大	輻射點		附近の星	備考
		α	β		
八月30日→九月2日	1 日	86°	+41°	馭者 τ	速，1911 II
九月中 一 下 旬		13	+ 6	魚 δ	緩
21日頃		31	+19	羊 α	緩
27日頃		4	+28	アンドロメダ α	緩
下 旬		23	0	鯨	
十月 8日頃		77	+31	牛 β	緩
9日頃		263	+54	龍 ν	ジャコビニ彗星
15日～25日		92	+15	オリオン ξ	速，痕
20日～25日		98	+14	双子 γ	速，痕
十月 —— 十一月		43	+22	羊 41	緩，輝

上記の中，最も顯著なものは十月下旬のオリオン，双子より放射する流星群であるが，本年は21日に月が下弦となるので，極大期の22～23日頃は月の妨害は少い．會員各位の觀測を切望する．

編輯室より

前號は，印刷に非常に時日を要し，遂に發行日の變更を行ふことにもなつたので，讀者諸氏に大變御心配をかけたが，しかし，あの號の出來ばえを見て，喜んで下さつた方々が多かつたので，ホッとした．しかし，發行日は今尙延びたまゝになつてゐるので，何とか本號の印刷を一日でも早く終りたいと思ひ，心ならずも机上に山積してゐる原稿を暫く押へて，こんどは本文24頁，附錄8頁の形で出すことにした．次號や次々號に出すべき文の中には，吉岡修一郎氏の占星術，津田雅之氏の陣鐘，齋藤馨兒氏の流星群，渡邊敏夫氏の日本幕末時代のプラネタリウム，伊達山本兩氏の太陽觀測法論議，森岡孝雄氏の日時計，主幹の國民天文教程，平山窪川木村三氏の小傳等がある．大に期待して頂きたい．

木村榮博士が逝去された．今年は我が國天文學界に於いて多くの碩學を失つたことを悲しむ．木村博士のことは本誌にも度々書いたが，近號に又追悼文を載せなければならぬ．(1943～9～26)